

小学生が大石田の土で陶芸楽しむ

・中学生を対象とした陶芸教室が、7月26日(水)に大石田中学校で、8月29日(火)に大石田小学校で行われ、児童や生徒が陶芸を楽しみました。

この陶芸教室は、講師として大石田焼のブルーノ・ピーフルさん(川前)、次子窯の高橋廣道さん(次子)などに協力いただき、毎年開催しているものです。

この内、大石田小学校では町内の6年生児童41人が参加しました。昨年までは各小学校で行われていましたが、今後の小学校統合を踏まえ、今年はサンスタディの一環として、3校の合同開催となりました。

児童たちは、作業を始める前に次子窯の高橋さんから陶芸の作業工程や注意事項などの説明を受けました。説明が終わると真剣な表情で土と向き合い作陶を始め、食器やモニュメントなど個性あふれる作品作りを楽しんでいました。

参加した児童の安達利迦さん(大小6年)は、「マグカップを作りました。カップの側面が滑らかになるように工夫しました。講師の先生が作っているところを見ると簡単そうだったけど、実際にやってみると難しかったです」と話していました。



武蔵野大学の学生が町を訪問 伝統のそば打ちや陶芸を学ぶ

武蔵野大学の学生たちによるフィールド・スタディーズ(学外学修)が、8月21日(月)～9月1日(金)に町内各地で行われ、同大学の1年生32人が町の歴史や文化などを学びました。同大学では、学生同士や受入先の方との深い交流を通して、新しい価値観を育み、視野を広げ、専門課程における目標設定や学びの動機付けを促すために、フィールド・スタディーズに力を入れています。

今年で3回目の開催になりますが、これまではコロナ禍のため、オンライン形式で実施されたことから、今回初めての現地開催となりました。学生たちは8人ずつ4班に分かれ、2泊3日の日程で滞在し、町内の歴史・観光名所巡りやそば打ち、陶芸、地域おこし協力隊との交流など、地域住民との交流を通じて地域課題を考えました。同大学では9月14日(木)に、大学と町を遠隔で結ぶオンライン形式で成果発表会を開き、地域課題の解決策を提案します。そちらの様子は次号に掲載します。

ではコロナ禍のため、オンライン形式で実施されたことから、今回初めての現地開催となりました。学生たちは8人ずつ4班に分かれ、2泊3日の日程で滞在し、町内の歴史・観光名所巡りやそば打ち、陶芸、地域おこし協力隊との交流など、地域住民との交流を通じて地域課題を考えました。同大学では9月14日(木)に、大学と町を遠隔で結ぶオンライン形式で成果発表会を開き、地域課題の解決策を提案します。そちらの様子は次号に掲載します。



高齢者ゲートボール大会 日ごろの練習の成果競う

第42回大石田町高齢者ゲートボール大会が9月1日(金)にクロスカルチャープラザ「多目的コート」で開催されました。

この大会はゲートボール競技を通じて、軽スポーツの日常化をはかり、仲間作りや健康づくりを推進しようと、毎年開催されているものです。今大会には、4チーム16名が参加し、優勝を目指し熱い戦いを繰り広げました。

大会結果は下記のとおりです。

順位	チーム名
第1位	里・上ノ原
第2位	仲通・駒籠
第3位	四日町
第4位	上宿



会場は虹のプラザ全体！ 回遊しながらパフォーマンスを堪能

大石田AIRアートパフォーマンス公演「dai-tei-den(大停電)」が、9月1日(金)に公開リハーサル、2日(土)に本公演が虹のプラザで行われました。同公演は、映像作家・振付家のNishi Junnosukeさんを招いて行われたもので、これまでにない「虹のプラザ内を回遊しながら観るアートパフォーマンス」という試みで行われました。

当日は、ダンスやオンラインによるライブパフォーマンス、音にまつわる作品の展示などが行われ、来場者は各々のペースで場内を回遊しながら、パフォーマンスや展示を鑑賞していました。



大石田町戦没者追悼式 平和への祈りをこめて

大石田町戦没者追悼式が、8月20日(日)に開催され、遺族や関係者ら約60人が参列し、先の大戦で犠牲となった町内出身戦没者300有余のご冥福を祈るとともに、平和への誓いをささげました。

参列者全員による黙とうの後、村岡藤弥町社会福祉協議会長の式辞や来賓の追悼の辞に続き、町仏教会会員による導師法語・読経や参列者の献花が行われました。

最後に遺族代表の高橋恭悦さんから謝辞が述べられ、参列者一同で平和への誓いを新たにしました。